

## 岐阜市の「バスまちば」

### 十六銀と中部薬品参画

岐阜市内のコンビニエンスストアなどの店舗を活用したバスの待合スペース「バスまちば」の取り組みに、新たに十六銀行(同市)とバローグループでドラッグストアを展開する中部薬品(多治見市)が参画する。12月19日に2者の店舗を含む6カ所が新設され、市内のバスまちばは18店舗に拡大する。

停留所近くのコンビニな

どにバスの到着を待つ人が待機できるスペースを設け、利便性を高める取り組み。岐阜市と岐阜乗合自動車、市総合交通協議会が連携し、これまで4社と協定を結んで取り組んできた。金融機関の参画は初めて。

新たに加わる2者は19日に協定を締結。柴橋正直市長は「バス運行会社、利用

客、協力企業が三方よしとなるよう取り組みたい」と述べた。市によると、他の自治体もバスまちばの取り組みに関心を寄せており、今月1日から新潟県長岡市が市内の店舗で運用している。(大賀由貴子)

新たにバスまちばが開設される店舗は次の通り。

十六銀行忠節支店、Vドラッグ長良西店、Vドラッグ北一色薬局、スギ薬局岐阜城東店、ファミリーマート岐阜西部中島店、セブンイレブン岐阜加納城南通3丁目店



「バスまちば」の協定を結んだ柴橋正直市長(中央)と関係者  
＝岐阜市役所